



令和4年度 第6回家庭教育講座「子そだてマナビィ」講座報告

読書へのいざない

～本好きな子どもに育てるために～



日 時：令和4年10月8日（土）10：00～12：00
場 所：嘉川地域交流センター
講 師：森重 厚子 氏（学校司書）
受講生：大人13人

<講 座 内 容>

子どもたちの読書に関する意識等の実態調査や、読書が育むものについて、また家庭で読書を楽しむためのポイント等を学びました。おすすめの絵本などたくさんご持参くださり、読み聞かせを交えてお話いただきました。

参加者には各自お気に入りの本をご持参いただき、ワークショップを行いました。

今日のテーマ

- 1 学校司書とは
- 2 子どもの様子
- 3 読書をする・・・
- 4 家庭で読書を楽しむためには
- 5 皆さんのお気に入りの本



1 学校司書とは

学校の図書室の管理運営の他、具体的な仕事のひとつとして、子どもへの支援（読み聞かせ、ブックトーク、レファレンス、展示企画など）を行います。

調べ学習のサポートとして、授業に合わせた本を紹介したりもしています。

その他、読書活動の啓発、周知をおこなっています。

2 子どもの様子

講師所属校（秋穂）におけるアンケート調査より—こどもたちの意識—

本が好きな理由（一部抜粋）

- ・わくわくしたり、ドキドキしたりして結末がしりたくなるから
- ・想像が楽しい ・頭がすっきりする
- ・いろんなことをすることができるから
- ・集中力がつく
- ・いつでもどこでも読める
- ・静かにできる ・一人で読むのが好き
- ・カッコいい人がでてくる
- ・主人公の気持ちになって楽しかったりさみしかったり、いろいろな気持ちをもてるから
- ・悲しいことがあっても本を読むと楽しくなるから



本が好きではない理由（一部抜粋）

- ・長い本は読むのがたいへん
- ・話が終わるまでが長い
- ・字を読むのがめんどくさい
- ・好きな本がない
- ・家に本がない
- ・YouTubeを見る方がいい
- ・読むひまがない

→→→読書は子どもたちの自己形成を助けている！

3 読書をする・・・

★読書は「自己形成の糧」、「コミュニケーション力の基礎」になります。

★知識を高める



「読書がたくましい脳をつくる
—脳科学が見つけた、みんなの生活
習慣と脳の関係—」
著／川島隆太
くもん出版

「読書力」
著／齋藤 孝
岩波新書



読書→脳の前頭前野が活発になる

注目!

→考える力、記憶、理解、状況判断、我慢する力などが育つ。

★想像力を育む

主人公の体験を共有し、相手の気持ちを考える力がつく。

★豊かなこころを育む

「殺し合いのゲーム」からは得られない、心を育む体験が得られます。

≪たくさんのおすすめの絵本のなかから一部ご紹介≫
読み聞かせもしていただきました！

おすすめ!



「せかいいち うつくしい ぼくの村」
作・絵／小林 豊
ポプラ社



「わすれられない おくりもの」
作・絵／スーザン・バーレイ
訳／小川 仁央
評論社



「かわいい わたしの ぼうや」
文／キャシー・アペルト
絵／ジェーン・ダイヤー
訳／村上 真理
岩崎書店



おすすめ!



「よだかの星」
作 / 宮沢 賢治
絵 / 中村 道雄
偕成社



「ゆずちゃん」
作 / 肥田 美代子
絵 / 石倉 欣二
ポプラ社



「でんでんむしのかなしみ」
作 / 新美南吉
絵 / かみやしん
大日本図書

ワークショップ（お気に入りの本紹介・発表）

グループに分かれて、それぞれ持参した本の、好きな理由や思い出などを共有し、代表者が全体で発表しました。



盛り上がりました！



★親子の時間を作る

子どもに読み聞かせた本は、親子の一生の思い出。親子の時間を紡いだ、大切な宝物になります。読み聞かせをされている今の時間を大切にしてください。

《様々な思い出エピソードの詰まった本から一部ご紹介》



「はっけんじん」
作 / 川端 誠
クレヨンハウス



「三びきのやぎのがらがらどん」
絵 / マーシャ・ブラウン
訳 / 瀬田 貞二
福音館書店



「プッポコとペッポコ」
作 / 岸田 衿子
絵 / 片山 健
福音館書店

- ・「いつも読み聞かせる親が先に眠ってしまっていた」など、本をきっかけによみがえる親子の思い出は嬉しいものです。
- ・いくつになっても読み聞かせは嬉しいものかもしれません。

4 家庭で読書を楽しむためのポイントは？

ポイント

①家に本を置く

- ★押し付けは逆効果？さりげなく部屋に本を置いておく。
- ★子どもに言うだけでなく、一緒に読もう！
- ★テレビのスイッチは思い切って切ってみる。チャンスは寝る前！



②一緒に図書館に行く

- ★県立、市立図書館や地域交流センターなど、親子で行ってみましょう。お話会のイベントも利用してみよう！公立図書館には学校よりもたくさんの本があります。広い空間も楽しめますよ。

③学校の「読書週間」の機会を上手に利用する

- ★家族ぐるみの取り組みをしてみようと、子どもは興味を持ちやすいです。きっかけを作ると、子ども自身が読書の楽しさに気づくことも。
「読み始めると楽しい」

④本でコミュニケーション

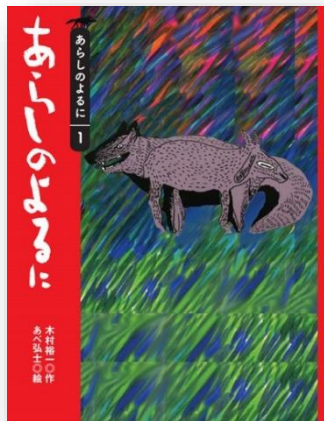
- ★家族に読み聞かせをしてみる、してもらう。家族で同じ本を読み共有することが思い出に。
「家族が聞いてくれてうれしかった」「弟に読んであげているところがほほえましい」

⑤大人が読書好きに

- ★大人の親の読書をしている姿を見せる
- ★家庭の中で読書に関わる会話をしてみよう
- ★大人も子どもの本を読んでみると楽しいですよ

5 皆さんのお気に入りの本

《子どもたちにとっても人気だった本いろいろから一部ご紹介》



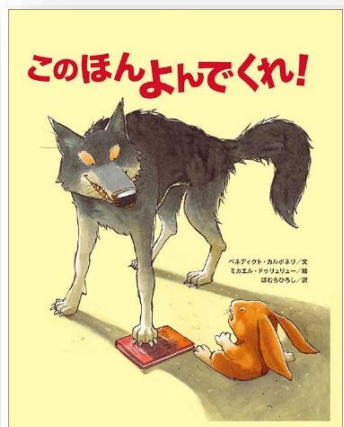
「あらしのよるに」
作 / 木村 裕一
絵 / あべ 弘士
講談社



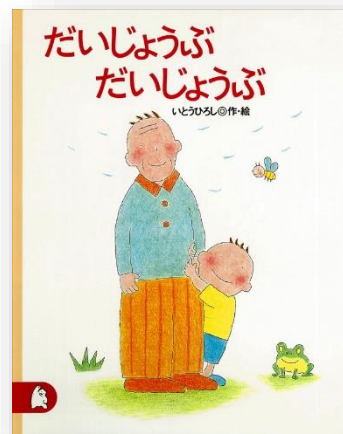
「かいじゅうたちはこうやってピンチをのりもった」
著 / 新井 洋行
監修 / 森野 百合子
パイ インターナショナル



「花さき山」
作 / 斉藤 隆介
絵 / 滝平 二郎
岩崎書店



「このほんよんでくれ!」
文 / ベネディクト・カルボネリ
絵 / ミカエル・ドゥリュリュエ
訳 / ほむら ひろし
クレヨンハウス



「だいじょうぶだいじょうぶ」
作・絵 / いう ひろし
講談社

新学期に読んでいました。
新しいスタートで不安な
子どもたちの気持ちに寄
り添います。

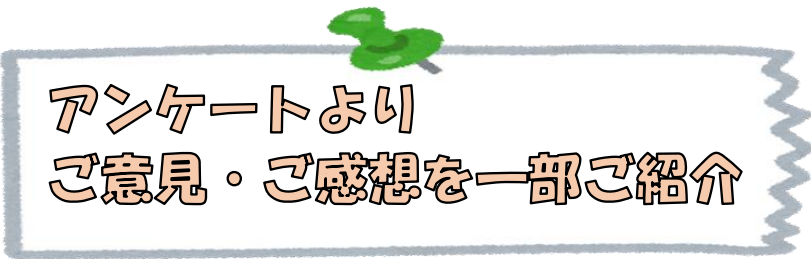


重要!

森重先生より…この講座のタイトルにある「いざない」とは、一緒に行動するようにすすめること。保護者の皆さん、子どもと一緒に、本に親しみ、楽しんで欲しいです。

【講座の様子から】

沢山のおすすめの本をご持参いただき、読み聞かせをしてくださりながらご紹介されました。ワークショップでは参加者はグループでそれぞれの思いを楽しそうに語り合い、盛り上がりました。



アンケートより ご意見・ご感想を一部ご紹介

- ★先生や、グループワークでご紹介いただいた本は、知らないものがたくさんあって、とても新鮮でした。すぐにでも図書館に行って借りてくるか、買ってじっくり読んでみたい、と思いました。子どもは大きくなってしまいましたが、ソファに並んで座って、読んでやろうと思いました。そして感想を言い合って、親子の時間を大切に過ごしたいと思います。素敵な時間をありがとうございました。
- ★最近家での読み聞かせが出来ていないことが気になっていました。5歳の息子ですが、息子はYouTubeにはまっています。やっぱり読み聞かせをして、親子の時間を大切にする必要があると感じました。今は、子どもに読んであげたい本を沢山紹介してもらいました。とっても楽しい時間でした。ありがとうございました。
- ★子どもを本好きにするには、まず環境が大切であり、大人が本を楽しんでいることが大切だと思いました。本が時を経て家族の思い出になっていたり、大きくなってまた読み返したりした時にその内容が理解できることを改めてわかりました。子どもが小さい時にしっかり本でコミュニケーションをとることが大切で、大事にしていきたいと思いました。
- ★本に対しても、新しい発見ができてとても有意義な時間、参考になりました。本に対しての原本に帰ったようで大変勉強になりました。
- ★具体的にどうすれば子どもが本好きになるかを教えていただき、とても参考になりました。ありがとうございました。
- ★具体例を基に話をしていただいたので大変わかりやすかった。学校の子供達に、読書の楽しさを様々な形で伝えていきたいと思う。
- ★たくさん本を紹介していただいて、実際に読み聞かせをしていただけたのが良かったです。ありがとうございました。
- ★私は読書が好きなので、先生のお話はよく分かりました。私が読書を好きなのは、読むことが得意だったからで、他の分野は苦手なことがたくさんあります。子どもを本好きにしようと気負って無理強いせず、もし本に興味があった時に楽しんだり寄り添ったりできるような環境を整えてあげようと思います。たくさん楽しい本を紹介していただけて良かったです。私も楽しみながら子どもと本にふれあっていきたいです。